

令和元年度第2回
平戸市総合戦略推進委員会
議 事 録

と き：令和元年9月24日（火）13：30～15：50
と ころ：平戸市役所 3階中会議室

開催日時	令和元年9月24日(火) 13:30~15:50
開催場所	平戸市役所 3階中会議室
出席委員 (50音順、敬称略)	赤木望、白石くみ子、田上和利、綱辰幸、都野川直樹、 豊増見喜雄、長崎屋容子、福田章、町田和正、松山芳弘、 馬渡勇一、山邊幸一、山本洋一 (13名)
欠席委員 (50音順、敬称略)	岡田眞、佐藤武郎 (2名)
事務局 (財務部企画財政課)	田中課長、藤山班長、浦川主任主事
事業担当課長	観光課：藤田課長、商工物産課：村田課長、文化交流課：下田班長 農林課：度嶋課長、水産課：藤澤課長
次第	(事務局)
1. 開会	
2. 副市長 あいさつ	町田副市長
3. 推進委員会 会長あいさつ	綱会長
4. 議題 (1)現在の雇用失業状況等について (2)平戸市総合戦略に係る平成30年度事業の実施状況等について 【基本目標1】 雇用の促進 委員	(江迎公共職業安定所所長 都野川委員より説明) ●質疑等なし 【基本目標1】雇用の促進 (事務局説明) ●質疑・意見等 地場企業就職促進事業で、企業のガイドブックを高校に配布している

	<p>とのことであるが、中学生でも将来についてしっかりとした考えをもっている生徒もいるので、中学校でもパンフレットを配布したらどうか。</p>
<p>担当課</p>	<p>企業ガイドブックは、昨年度市内 30 社を対象に作成を行った。この 30 社の企業については、今年度正社員として雇う予定の企業を対象に抽出し、1,000 部作製を行い成人式や市内の 3 高校の 2 年生を対象に配布した。その他にも合同企業面談会や企業の面接の際に平戸市にはこのような企業があるということで使わせていただいた。就職について考えるのは高校生という認識があり中学生への配布は行っていないが、ご意見をいただいた中学校への配布については持ち帰って検討する。</p>
<p>委員</p>	<p>市内にこういった企業があるということを中学生も知っておけば、平戸で働こうという生徒もいるのではないかと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>中学校でのインターンシップをやっていると思うので、中学生も知る必要があると思う。配布を行ってもらいたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>中学生も将来、就職をどうするかで高校を選ぶので、中学生だからこそ就職や将来について知識を得ておく必要があると思う。市内にどのような企業があるか分からない生徒も多くいると思うので、企業ガイドブックを配布してもらえるとありがたいし、中学生のうちから将来について考えることは必要だと思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>昨年企業ガイドブックを作成し高校に配布を行ったが、すぐに効果がでるものではなく、継続的にやっていかなければならないと思っている。そのような中で中学生も対象にしたほうがより効果的であるとのことをご意見を頂いたので今後の事業展開に生かしていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>地場企業就職促進事業の企業見学バスツアーと地元企業合同説明会に猶興館高校が入っていないが、今後は実施されるのか。</p>

担当課	猶興館高校にも案内をしたものの参加者がいなかった。今後も引き続き案内を行っていく。
委員	現在は市内高校を対象に事業を実施しているとのことであるが、高校生は都会に出たい生徒もいると思うし、知っている人がいる中で働きたくない生徒もいると思う。市内の企業としては人に来てほしいわけであるので、自治体が違うので難しい部分があるとは思いますが、鹿町工業高校であるとか松浦高校等の近隣の高校にも働きかけを行うことも大事だと思う。
担当課	予算や人員の関係上、初年度については市内高校を対象を絞って実施した。予算とマンパワーの部分があるが、担当課内の意見としても、近隣自治体の高校も対象にするべきではないかといった意見も出ており今後の検討課題となっている。
委員	平戸市内の中学生の40数パーセントは市外の高校に進学していることは問題だと思っているが、就職に関してはまず平戸市内の高校を中心に考えていただきたい。市外高校に進学した生徒に声をかけるよりも先ほどからも意見がでてるように中学生への働きかけを行ったほうが良いと思う。
担当課	今年の市内3高校の卒業生は231人いた。そのうち就職者79名中、市内就職者はわずか16人であった。猶興館高校においては、117人の卒業生のうち市内就職者は1人しかいない。このような状況の中、市外に出た生徒が平戸に帰ってこようと思ったときに、こういった企業があるということを知らせるためにも、市内企業の周知事業はやっていこうと思っている。
会長	大学でもインターンシップを行っているが、大学生でもインターンシップや就職は分かりやすいところに行き、地元企業にはなかなか行かない。そういった意味では、地元企業を知る機会を与えることは中学

	<p>生にとっても良いと思うし、地元企業を知ることにより郷土愛が生まれてくる可能性もある。また、人の移動については憲法で認められているので市外に出ていくなという事はできないが、できれば市外でいろいろなスキルを身に付けて平戸に帰ってこれるようなシステムを検討してもらえれば、地元企業の発展にも寄与できると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>地場企業就職促進事業で事業の改善に父母（保護者）へのマッチングの場の提供との記載があるが、高校生の就職については保護者の影響力が強く、その方々に市内の企業を知ってもらう必要があると思っている。今後、具体的に継続的なマッチングの場はどのように考えているのか。</p>
<p>担当課</p>	<p>昨年度、高校2年生を対象に1日で市内企業を3～4社を回るという企業見学バスツアーを行った。その際には保護者にも手紙を出して一緒に見てくださいと呼びかけを行ったが、結果的には保護者の参加者はいなかった。就職について保護者が決定をする部分もあると思うので、保護者に対しても市内の優良企業や就職先の情報を周知していく必要があると考えている。</p>
<p>委員</p>	<p>平戸で開催されたキッズ・ジョブ・チャレンジで、小学生の子どもをアリエス(株)に連れて行ったが、私も初めて平戸ブランドでスーツを作っている会社があることを知った。高校生になると、親となかなか一緒に行動しないので、保護者への市内企業の周知については、高校生に特化せず保育園や小学生の子どもを連れて保護者も一緒に参加する体験型のイベントを行ったほうがよいと思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>キッズ・ジョブ・チャレンジとして、平戸市では小学生・中学生を対象にして子どもの職業体験と観光誘客を合わせて行っている。市内の企業さんに協力して頂いて職業体験を1時間程度行っている。この事業は全国的に増えてきているが、市内の企業を知ってもらい将来的に就いて頂こうという狙いで行っている。ちなみに今年の3月末実施</p>

	分については、3日間で延べ4,884人が参加して頂いている。
委員	江迎公共職業安定所所長の話の中で、求職者と求人側でミスマッチがあるとの話があったが、ミスマッチを解消するために何か方法があるのか。
委員	就職者と求人側のミスマッチの解消はなかなか難しい。すぐに効果ができるものではないが、ハローワークではまったく別の職種に就きたい場合は3か月から6か月間、職業訓練に行って新しい技術を身につけてから職場に行ってもらっている。事務職の求人については、新たな誘致企業がくれば話は別であるがなかなか雇用が増えていかない。
委員	ミスマッチの解消にかかる事業は実施しているのか。また、今後考えていくのか。
担当課	高校生の就職については、進路指導の先生が中心になって就職先の検討はしている。市からの学校への働きかけとしては、学校に対して情報収集までに留めている。
委員	平戸市のサービス業や宿泊飲食については求人が多いがそれに対して応募が少ない。観光の観点からいくとサービス業や宿泊飲食は求人が多い職種の一つだと思うので、事業の中に入れていただければと思う。
担当課	その点については取り組んではないが、今後の事業の検討に生かしていきたい。
委員	創業支援について設備投資への支援があるが、サービス業については設備投資はあまり関係がない。その部分での事業を作っていただくと少しミスマッチが解消できるのではないかと思う。

担当課	<p>創業支援については、年間 14 件の創業を成功させたいと考えているが、平戸で事業を起こしたいという人が少なくなっている現状がある。将来的な人口減少を踏まえると平戸市で事業を立ち上げて継続的・安定的に事業をやっているのか見込みが立てれないといったところは認識している。特に製造業だけに創業支援を行っているわけではなく、サービス業も踏まえて創業支援を行うようにしているが、なかなかサービス業については少ない状況にある。</p>
委員	<p>ミスマッチというのは、産業構造が変わっていく中で、少なくなる職業と求人が多くなる職業がある。求職者の意識が変わらないと、このミスマッチは解消されない部分がある。まず、事務系の職業では、ICT化が進むとどんどん求人が少なくなる。現在の平戸市では、製造業系を中心に企業誘致を行おうとしているが、長崎市を中心にオフィス系の企業誘致を行っている。これは事務系かその他サービス系の求人になると思うが、そういったものも平戸市には必要だと考える。創業についても、製造業の創業については設備投資がいるが、サービス業や小売業についてはそれほどいらぬし、現在多くなってきている空き店舗でお店をやりたいといったときに、設備投資といわれても困る。議会等でも言われているが、制度の見直しも必要だと考えている。</p>
委員	<p>企業ガイドブックについては、30 社掲載をしているとのことであったが、この 30 社についてはどのような選考をして掲載をしたのか。30 社に限らず市内の事業所を一覧で載せていただきたい。</p>
担当課	<p>企業ガイドブックの掲載については、正職員を新規で雇っていただける企業を班回覧にて募集を行った。募集の段階では 30 社に満たず、大きな企業についてはこちらからお声かけをさせていただき、現在の 30 社となっている。</p>
委員	<p>できれば業態別に照会していただきたい。</p>

委員	<p>創業支援対策事業で事業の改善に「市内創業者の成長に寄与するフォローアップを行うことが必要である」と書いてあるが、市としてはどのようなフォローアップを考えているのか。商工会議所や商工会では、融資とか税務の個別相談は行っているが、個別ではなく全体的なフォローアップを考えているのか。</p>
担当課	<p>創業者支援については、今から創業する方を対象にする場合と実際に創業した人を対象にする場合があるが、現在、企業塾、いわゆる創業セミナーを商工会議所、商工会と市が連携して行っている。これは主に今から創業する方を対象にしているが、創業後5年未満の方も参加可能としている。11月から12月にかけて8回、18時から20時までということで開催している。また、平戸市が中小企業診断士協会と提携して毎月創業相談会を開催している。開業された方でも、今後の経理的な悩みであるとか資金の関係であるとか相談があれば中小企業診断士から指導・アドバイスを受けていただいている。以上の2点を行っている状況である。</p>
委員	<p>開業して2～3年でやめる方もいる。創業した方同士が悩みを話しあえるグループ等の環境づくりも必要ではないか。</p>
担当課	<p>創業者同士の情報交換にもなるので、今後考えていかねばならないと思っている。</p>
委員	<p>積極的にやるのであれば商工会議所も協力するので前向きに検討をお願いします。</p>
会長	<p>地元就職については、小学校や中学校、保護者も含めて早いうちから地元企業の良さを知る機会を設けていただく。ミスマッチについては、行政としても何かしらの施策が必要なのではないかと思う。</p>

<p>【基本目標 2】 産業の振興</p> <p>委員</p> <p>担当課</p>	<p>【基本目標 2】雇用の促進 (事務局説明)</p> <p>●質疑・意見等</p> <p>農林業については手厚い支援を頂いている。新規就農についても6名ほどおり、アスパラ等の施設園芸、畜産の方でも後継者が出てきている。併せて、子牛の値段も高値で安定しており生産者の意欲も高い。しかし、肥育の方では枝肉の価格が下がり苦戦をしている状況があり、今の値段が続くとも言い難い部分がある。平戸市においては子牛の生産が主であり、いろいろな支援をいただいて規模拡大をしているが、今後の動向に十分注意をしながら農協としても堅実な経営について指導していきたいと思っている。また、新規で就農したという方には、2年間の生活費の支援も有効に使っていただいて、田畑もかなり荒廃が進んでいるので、中間管理機構の制度を利用する等、規模拡大についての助言等も頂きながら、自立した経営ができるよう努めていきたい。</p> <p>農林業の振興については、今回提示している各種事業を展開しながら、新規就農者や主要農林畜産物販売額の確保等を進めているが、子牛価格については、10年前は1頭あたりの平均が40万円ぐらいであったが、平成28年がピークで1頭あたり平均は85万円くらいまで上がっている。平成29年から下落傾向で昨年は78～79万円、今年に入ってもやや下落傾向が続いている。ここ数年は価格が高すぎた部分があり、肥育農家の関係もある中で、今後はあるべき姿に落ち着いていくのではないかと考えている。70万円以上で販売ができれば一定の利益も確保できると思うので、関係機関と協力・連携しながら進めていきたい。新規就農者の確保については、目標値以上で推移している。この中には農家の方の跡継ぎも含まれているが、中にはIターンの方もおり、新規就農の支援が後押しとなり農業を始められた方もいる状況がある。規模拡大についても、農協とも振興作物等の協議を行いながら産地化を含め進めていきたい。</p>
--	--

委員	私の地域でも種馬鈴薯を作っている方が結構いるが、後継者がいないところが多い。種馬鈴薯を作っている生産者は安定した収入を得ているのではないと思う。後継者等の斡旋や紹介をするのは、農協なのか、市なのか。1つの産業として捉えた場合、絶えさせないという意味でもどちらが引っ張っていくのか聞きたい。
担当課	どちらが紹介するという事ではないと思っている。種馬鈴薯の部会でも後継者不足であることは認識をしている。いかに会員を増やすかということが部会の課題となっている。販売額が平成28年は2億程度あったのが、29年は1億8千万、30年は1億4千2百万といったように、農家戸数の減少により販売額が減ってきている実態がある。いかに減少に歯止めをかけるのかが課題となっており、部会を始め農協や市が協力をしながら歯止めをかけていくのが重要ではないかと思っている。
委員	高齢化になり作付面積を減らしている。種馬鈴薯は重量作物であるため、なかなか家族だけではできない部分があることが販売額減少の要因の1つではないかと考えている。産地の作物であるので、戸数も出荷も現状維持しないといけない。生産量を確保しないと流通に乗らない可能性もある。そのようなことも含めて後継者が必要ではないかと思う。
委員	畜産やアスパラガスは新規の方がいるが、馬鈴薯の新規の方は聞いたことがない。大島や大川原地区については、県下でも種馬鈴薯の産地として安定しており、農協としても安定している作物として周知していきたい。また、販売についても平戸の青果馬鈴薯や玉ねぎについては高値で取り引きをしてもらっているので、後継者の育成については農協としても応援していきたい。
会長	水産の方はいかがか。

<p>委員</p>	<p>毎年、後継者育成ということで、国縣市から年間3名支援をいただいで助かっている。しかし農業の方でもそうだと思うが、漁業で1年2年研修して一人前になるのは皆無である。やはり一番心配しているのは後継者で、現在の私のところでは約7割は60歳以上であり、あと10年もつのかといった状況である。できるかぎり雇用している従業員については、一般企業並みの労働環境を目指して。10年20年先まで安定した経営ができるよう努力している。</p>
<p>委員</p>	<p>観光の振興について、年間宿泊者数が約26万人で年間外国人宿泊者数が2万2千人であるが、どこの地域も年間宿泊者数の1割ぐらいが外国人であり、平戸市は1割を切っているのもまだまだ伸びしろがあると思う。ただインバウンドについては国際情勢に左右される部分がある。今も韓国との政治的な部分で来られるお客様が減っている。香港もデモがあっているので少し影響がある。また、台湾は1番伸び率が大きかったが、ここ数年は競合であるヨーロッパにお客様を取られ日本全体の伸び率が低下している。このように外国人観光客は国際情勢に左右されてしまう。ただ、2018年の外国人観光客は日本全体で3,119万人となっており、政府が掲げている2020年までに4,000万人という目標にかなり近づいている。当初は、難しい数字だろうと思っていたが、あっという間に3,000万人を超えた。国際情勢はいろいろあるが、今年のラグビーワールドカップ、来年の東京オリンピックパラリンピック、そして2025年の大阪万博と日本にとっては追い風が吹いている状況にある。そのような中、私が懸念していることが2つある。私は2つのAという言い方をしているが、1つはアクセス。個人の観光客が増えている中、公共交通機関を使って平戸まで来るのはかなり厳しいところがある。そこをどう解決していくのか。もう1つはアコモデーション（宿泊）。大型旅館の個人客への対応については、まだまだ遅れている部分があるので、大型旅館対策を改善していかないと満足度が上がっていかないと、個人客への対応も難しい部分がある。そこを解決していくために平戸版DMOをしっかりと作り上げてお客様への対応を変えていく。データに基づいたターゲティング・マネ</p>

	<p>ジメントそして戦略に基づいた事業を展開していく。インバウンド対策というより全体的に宿泊者をいかに増やしていくのかという事業展開が必要になってくる。また改善・改革が必要な部分について、どのように事業に転嫁してお客様が来ていただけるような環境づくりをしていくのかということ、計画の中でも反映できるよう事業を行っていければと思う。</p>
<p>担当課</p>	<p>今後は、観光の事業の一元化を図る予定としているので、事業も含めて平戸版DMOにシフトしていこうと考えている。外国人観光客については、韓国のお客様は減っているが対前年比で8月については外国人観光客は5%の減少となっている。9月以降については、韓国人観光客のキャンセルが増えているので全体的には1～2割程度の減と予想している。今後の方針については、平戸版DMOを柱として様々な情報発信や満足度をいかに上げていくかといった取り組みを進めていく。平戸版DMOの皆さんと戦略を練って、集中と選択を行い、ターゲットを絞って観光客誘客を図っていききたい。</p>
<p>委員</p>	<p>関西圏や福岡でアンテナショップを出す場合は、移住の案内も併せて行ったほうがよい。</p>
<p>委員</p>	<p>DMOについては、観光と産業の共同体との位置づけで進めていっていると思うが、観光と物産は両輪であることを前提に事業をあげていただきたい。また、KPIを達成していくためには、関係する企業や団体の集まる場を作らなければならないと考えている。関係団体と情報共有を密に行い、何かテーマを絞って定期的に話を行っていけば、KPIも目標値に近づいていくのではないかと思う。そのような中で、キャッシュレス決済について研究会を立ち上げ冊子を作った。この研究会に関係するところが、平戸市の商工物産課、商工会議所、商工会、銀行、観光協会及び県である。今回はキャッシュレス決済についての質疑応答集を作ることが目的であったが、これが終わったらまた別のテーマで進めていく。現場の方が集まって議論をする場を作</p>

	て積極的にやっていきたいと思っている。
委員	平戸市の農林業、水産業、観光業について、自治体間で情報を共有する場はあるのか。
担当課	農林課は県内各市の部長会議や課長会議があるので、その中で課題等を意見交換する場はある。
担当課	水産課も課長会議や主幹者会議があるのでその中で意見交換を行っている。
担当課	観光課も主幹課長会や九州観光推進機構等から情報をもっている。また、旅行会社さんから先進的な取り組みを行っている自治体や民間の情報を聞き合わせている。
委員	主要農林畜産物販売額が少しずつ減ってきているのは、生産者が減っていることが大きな要因か。
担当課	農家戸数はかなり減ってきている。農業就業者数は平成12年の3,752人から1,931人となっている。一方、専業農家については、平成12年の363戸から平成27年は471戸と増えている。農家戸数は減ってきているものの、専業農家は増えてきているのでトータルとして販売額が維持できているのではないかと思う。また、子牛の価格が高値で安定している部分もあるが、この主要農林畜産物販売額の中にはシイタケが入っており近年では約10億円前後ある。
委員	平戸観光に期待したものについての満足度が63%となっているが、満足していない方の要因は何か。
担当課	アクセスや宿泊施設の老朽化が1番多い。また、時間帯によって飲食店が開いていないということ。一方、自然景観については、かなり満

	<p>足度が高い。</p>
<p>委 員</p>	<p>観光人材育成プログラム事業に「語学力のあるスタッフの確保が課題となっている」とあるが、そのような人を集めるのはなかなか難しい。早急に対応する必要があるのであれば機械に頼る方法も検討すべきではないか。</p>
<p>委 員</p>	<p>お客さんへの対応は機械化しているし、ある程度の会話で十分かと思う。ただし、病気やケガ、災害が起きたときなどの緊急時の対応については、ある程度会話ができた方がよいと思う。しかし、ここで「語学力のあるスタッフの確保が課題となっている」と書いてあるのは、ビジネス客に対しての部分ではないかと思う。事業を展開していく上での多言語化というのはすごく問題になっている。そういった部分では、英語が話せるというよりも中華圏の観光客が多い地域であるので例えば中国語が話せたりハングルができるスタッフがいると、より事業展開がしやすくなるといったことが書いてあると思うので、今後は外国人を入れたり語学力があるスタッフを入れていく必要があるのではないかと思う。</p>
<p>委 員</p>	<p>あまり自分たちだけでやろうとせずに、巻き込んでもらえればいいと思う。私たちが場を作るので課題等があればそれをテーマにしてやっていただきたい。</p>
<p>副市長</p>	<p>ありがたいご意見をいただいた。外部の方が入っている検討会等を洗いなおして体制を再検討するのも手かなと思う。ご意見を踏まえて対応したい。</p>
<p>会 長</p>	<p>農業や水産業について後継者問題は重要である。観光については、DMOによる更なる発展を期待したい。情報の共有は非常に重要になってくるのでオール平戸で頑張っていただきたい。</p>

7. 閉会

会議終了